



南 登美子氏

黄綬褒章受章記念祝賀会

令和3年10月18日
京都ホテルオークラ 4階「暁雲の間」

南 登美子氏 黄綬褒章受章祝賀会 次 第

司会 山名智美

開 会 の 辞

発起人代表挨拶

来 賓 祝 辞

京都府美容業生活衛生同業組合 理事長

京都府知事

京 都 市 長

衆議院議員

衆議院議員

参議院議員

全日本美容業生活衛生同業組合 理事長

奥田 英一

西脇 隆俊 様

門川 大作 様

前原 誠司 様

繁本 譲 様

福山 哲郎 様

吉井 眞人 様

来 賓 紹 介

記 念 品 贈 呈

花 束 贈 呈

謝 辞

京都府美容業生活衛生同業組合 理事長

受章者

奥田 英一

孫 よ り

南 登美子

《日本髪結髪・着付け 祝賀披露》

京都美容文化クラブ

笄 髻

先 笄

奴 島 田

結髪・着付け

結髪・着付け

結髪・着付け

西村 幸枝 先生

荒賀 弘子 先生

山口 映子 先生

京都日本髪結髪保存会

京 風 髻 お 染

雄おしどり髻

雌おしどり髻

結髪 田村眞理子 先生 着付け

結髪 沖 幸枝 先生 着付け

結髪 姓農 裕美 先生 着付け

作田 和子 先生

北垣 則子 先生

佐々木志奈子 先生

《祝 宴》

乾 杯

祝 電 披 露

歓 談

安井金毘羅宮 宮司

鳥居 肇 様

日本髪を結うということ（感謝を込めて） 受章者

閉 会 の 辞

京都美容専門学校 学校長

南 登美子

西 初美



河村長観画伯の原画をスケッチ：南 登美子

有職美容師 南 登美子

昭和3年2月2日（1928年）京都府京都市生まれ。本名：大林 登美子

物心ついてからこの仕事一筋に打ち込んでまいりました。先代「南ちゑ」に育てられ教えてもらったからこそ今があります。「日本髪を結う」という仕事は日本の歴史上の髪型を、すべて頭に入れ、それを再現できることにあります。今は髪型やスタイルを写真にしたテキストも沢山ありますが、私の時代にはそんな便利なものはありません。自分の記憶とスケッチ、そして先代の教えと残してくれた雛型が頼りでした。すべての技を見習い、覚えることはもちろんですが、その時代の人々の生き方や願い、そこから生まれた髪型の意味を知らなければなりません。

温故知新、幸いにもこの思いは「櫛まつり」にすべてを体現することができました。いつの時代も人の気持ちに寄り添って櫛を持ち続ける美容師のあるべき姿を「櫛まつり」を通して学ぶことができたと思っています。これまでに感謝し、そして心身共により美しく生きる姿を創り出す心技を次の世代に引き継ぎたいと思っています。

昭和26年 芸術祭全国大会優勝

日本画家「吉川観方」氏の故実研究に学ぶ機会を与えられる。

（吉川観方氏の写会は昭和9年頃から始められ上村松園も参加。染織祭、時代祭にも参画）

昭和36年 9月4日安井金毘羅宮神域に東山美容文化クラブ（代表南ちゑ）が「久志塚（櫛塚）」を建立し櫛供養をはじめる。以降、時代風俗の着付と結髪の正しい伝承を目的として「櫛まつり（本年61回目）」を開催。美容文化クラブ員として日本髪結髪技術の研鑽に励む。

昭和59年 ポストン美術館 時代風俗披露、ロッテルダム世界大会にて十二単結髪着付披露

平成 元年 ミナミ美容室、京都美容文化クラブ（東山美容文化クラブ）を引き継ぐ

平成 6年 京都府あけぼの賞「有職美容師」称号拝受

平成10年 京都市・パリ市友好姉妹都市40周年記念時代祭行列従事

平成16年 滋賀県土山市「あいのと山斎王群行」功劳表彰

平成18年 京都市観光協会「櫛まつり」文化功劳表彰

平成25年 伊勢神宮式年遷宮御祭主池田厚子様、臨時御祭主黒田清子様の結髪・装束拝命

平成27年 京都市自治記念表彰

平成30年 厚生労働大臣「現代の名工 卓越した技能者」表彰

令和 元年 文化庁長官表彰

令和 3年 黄綬褒章受章

日本髪結髪・着付け 祝賀披露の概要

京都美容文化クラブ

	髪型	概要
結髪・着付け 西村幸枝先生	笄髷 江戸中期	笄とは、本来は毛筋を立てたり頭を搔いたりするときに使っていた小道具のこと。その笄を初めて使用した髪型で笄に髷の毛先をS字に巻き付ける。室町時代、宮中に仕える女性が長い下げ髪が作業の邪魔にならないように笄に巻きつけたのが始まりで江戸中期には一般に結われるようになった。笄髷と島田髷の要素で派生したのが先笄。
結髪・着付け 荒賀弘子先生	先笄 江戸後期	江戸時代後期に上方を中心に西日本の町家の若い既婚女性によく結われた髷。大正初期まで結われていた。初期の先笄は、島田髷の一作った後、髪先を笄に絡ませただけの簡単な結い方であった。その後、飾りとして余った毛先を笄に水平にかけられるようになり、前髪の毛先を髷の上に渡す「橋」も加わり、「鼈甲」「珊瑚」など笄で留める技巧的で複雑な結い方になっていった。
結髪・着付け 山口映子先生	奴島田 江戸後期	江戸中期から明治初期にかけて流行した髪型。前髪に赤い布をかけるのが特色。奴島田髷は現代の高島田を低く小さく整えた髪型で未婚女性や花柳界の女性が多く結った。髷は一本髷で「髷挿」「髷張」で形成する。髷には手絡、奴玉と言われる珊瑚8連をくくり中央に翡翠玉をさす。

京都日本髪結髪保存会

	髪型	概要
結髪 田村真理子先生 着付け 作田和子先生	京風髷お染 江戸前期	おそめ髷は芝居「お染久松」でお染が結っていた髷。江戸前期、京都で「歌舞伎」踊り、江戸では「お染久松」の演目が人気を呼び、この髪型が結われるようになった。髷の上に「サバキ」の毛を橋に架け、後ろに垂らした形で愛らしさの表現をしている。上村松園の美人画『庭の雪』では割れしのぶに橋をかけている。
結髪 沖 幸枝先生 着付け 北垣則子先生	おしどり髷 雄（おん） 江戸後期	おんおしどり髷。江戸後期から明治時代にかけて婚約直後の若い女性が結っていた髪型。水鳥「おしどり」の頭の冠毛（頭の羽根毛）を思わせることから名前が付いた。雄のおしどりは結綿髷に、橋を髷尻の上へ架け、突き出したのが特徴。鹿の子や簪で可愛らしく飾ることで、華やかな雄鴛鴦を表現している。
結髪 姓農裕美先生 着付け 佐々木志奈子先生	おしどり髷 雌（めん） 江戸後期	めんおしどり髷。島田髷に「さばきの橋（髷の上を縦断する毛束）」をアーチ状にかけたもの。さばきの橋の毛が歩くたびに揺れ、品のある情緒とともに控えめな華やかさが大人っぽい印象を創り出している。この髪を結う女性が好みによって、おしどり髷の雌雄を結び分けていたとも言われている。

